

第8回中央日本四県（長野・新潟・山梨・静岡）サミット

多彩な芸術文化の振興

～文化芸術の価値を高め、
支える、ひろげる、つなげる、
信州のゆたかな未来～

令和5年11月7日（火）

長野県



1 長野県の文化政策の基本姿勢

～「第2次長野県文化芸術振興計画」のポイント、目指す姿～

2 具体的な取組

- ① 信州アーツカウンシルによる支援
- ② 世界水準の文化芸術に触れる機会の創出
- ③ 「アートの手法を活用した学び」の県内学校への展開
- ④ 社会包摂（インクルーシブ）の取組強化
- ⑤ 地域におけるアーティスト・イン・レジデンスの推進
- ⑥ 地元企業等と連携した民俗芸能の継承推進

1 「第2次長野県文化芸術振興計画」(2023~2027年度)のポイント

- **令和5年3月に「第2次長野県文化芸術振興計画」を策定**
(しあわせ信州創造プラン3.0(長野県総合5か年計画)の個別分野の計画)
- **「文化芸術の価値を高め、支える、ひろげる、つなげる、信州のゆたかな未来」を基本目標に、文化芸術があらゆる分野に根づき、生かされている長野県をつくる**

第2次計画の「目指す姿」

誰もが文化芸術と触れあい、心豊かに暮らしている

文化芸術の実践者への支援の充実、文化芸術に参加できる機会の拡大

主な施策 ① 信州アーツカウンシルによる支援の充実、② 世界水準の文化芸術に触れる機会の創出

文化芸術があらゆる分野に根づき生かされている

多様な分野における文化芸術の活用、文化芸術と地域のつながりの強化

主な施策 ③ 「アートの手法を活用した学び」の県内学校への展開、④ 社会包摂(インクルーシブ)の取組強化

文化芸術活動や伝統文化が地域で支えられ、その価値が引き継がれている

地域の文化芸術の推進力の強化、地域の伝統文化の保存・活用

主な施策 ⑤ 地域におけるアーティスト・イン・レジデンスの推進、⑥ 地元企業等と連携した民俗芸能の継承推進

2-① 信州アーツカウンシル（支援体制の概要）

- 文化芸術の中間支援組織「**信州アーツカウンシル**」による寄り添い型支援の充実
- 文化芸術の担い手を支援し、長野県の多様な文化芸術を多様な主体が支えることで、

- 1 長野県全域において、文化芸術活動の創造力・発信力を高める
- 2 文化芸術活動のポテンシャルを社会の様々な領域に広げる。
- 3 長野県内の文化芸術活動が持続的に発展する環境を醸成する。

の3ミッションを実現



2 - ① 信州アーツカウンシル（寄り添い型支援の成果）

● 助成プログラムにおける支援の成果、文化芸術の力を社会に展開している事例

文化 × 地域資源発掘、共創

「8mmフィルムの保存・活用を通じたコミュニティ再生と多世代が参加する地域映画づくり」

（まつもとフィルムコモンズ（松本市））

- 家庭に眠る8mmフィルムを収集し、松本の歴史（日常生活）を記録する地域映画「まつもと日和」を地域住民との協働で制作



- フィルムを救出・保存し、上映会を通じて、地域の歴史文化の省察・愛着の醸成、世代間交流を拡大



- 『ALWAYS三丁目の夕日』の山崎 貴 監督（松本市出身）が中学時代に初監督した作品を43年ぶりに発見！

文化 × ダイバーシティ推進

「まるっとみんなで映画祭2023

in KARUIZAWA」（まるっとみんなで準備室）

- 障がいの有無、言語や世代の違い、社会の生きづらさなど、異なる当事者同士が交流する機会を生み出し、作品鑑賞やイベント参加を通じて、相互理解を深めていく。



- 外国人、障がい者、LGBTQなど多様な方々が参画する映画祭を開催。福祉・教育・文化をつなぐプラットフォームを構築。

文化 × 民俗芸能・無形文化財の継承

むかがた かけおどり

「向方掛け踊り復活事業／お盆行事の継承」

（向方芸能部（むかがたげいのうぶ）（天龍村））

- 2006年を最後に途絶えていた村のお盆行事を復活
- 県の関係人口創出事業「信州つなぐラボ」をきっかけに、村内外の熱い思いを持つ有志が集結。6月からオンラインや集合しての稽古を繰り返し、8月14日、16年ぶりに「掛け踊り」を開催



文化 × まちづくり、空き店舗等のアート活用

「捨てる神あれば拾う神あり@トビチ美術館」

（（一社）〇と編集社（まるとへんしゅうしゃ）（辰野町））

- 辰野町の商店街の空き店舗や空き家を利用し、町全体を美術館と捉えて人の往来を活性化。
- アーティストの滞在制作により、来訪者や地域住民との間で交流が生まれ、アートを身近に体験できる空間と時間を創出。



2 - ① 信州アーツカウンシル（多様な主体との連携・協働）

● 信州アーツカウンシルと他主体との連携・協働、社会包摂の取組、主催事業の成果

連携・協働プログラム 文化 × ゼロカーボン 「信州アーツ・クライメート・キャンプ^o（会議）※」を開催



※ 県内で開催されているアートと気候に関する集い（公演、展示、上映会、など）のそれぞれを「キャンプ」として捉え、情報を共有・蓄積

■ 文化芸術分野としてどのようなビジョンで気候変動対策に取り組んでいくのか、県内で活躍するアーティストとの対話を通じて、「気候／アート／私たち」の関係を見出す。

社会包摂（インクルーシブ）プログラム 「ザワメキサポートセンター※」との連携（R4.6～）



※長野県障がい者芸術文化活動支援センター

■ 運営主体：（社福）長野県社会福祉事業団

- 6つの業務
- ① 相談支援
 - ② 支援人材の育成
 - ③ ネットワークづくり
 - ④ 発表の機会確保
 - ⑤ 作品の貸出、保管
 - ⑥ 情報収集、発信

地域創造・交流プログラム 「NAGANO ORGANIC AIR」



■ 公立文化施設、地域の文化芸術団体などがホスト（受入れ先）となり、アーティストの制作滞在をコーディネートしながら協働する、アーティスト・イン・レジデンス事業。「ORGANIC=有機的」なつながり醸成



- R4年度 8都市町村で、8組11人が制作滞在
- R5年度 4市村で、6人が制作滞在

地域創造・交流プログラム 「シンビズム」



■ H30～R5の期間に、6回の「企画展」を開催
■ 県内の学芸員が所属を超えて集い、県ゆかりの作家の作品を紹介する企画展や対話型鑑賞を開催

■ 全国一美術館・博物館の多い長野県の大切な人的資源である学芸員が、互いに学び合いながら協働



2 - ② 世界水準の文化芸術に触れる機会の創出

- 「セイジ・オザワ 松本フェスティバル (OMF) (H4~)」における、**世界最高水準の文化芸術の鑑賞機会**の提供、**中学校1年生、小学校6年生を対象とした、オペラ、オーケストラの鑑賞会**を開催
- 「ウィーン楽友協会とホクト文化ホール (長野市) との姉妹提携事業 (S57~)」に基づく**ウィーンの音楽家と長野フィルハーモニー管弦楽団との共演、県内小中学生との交流**

2023セイジ・オザワ 松本フェスティバル (OMF) 「オーケストラプログラム」、「子どもためのオペラ」、「子どものための音楽会」の開催 (R5.8~9)



実績 (R5)



OMF オーケストラコンサート

©大窪 道治



59校
4,293人

154校
7,474人

©山田 毅

ホクト文化ホールとウィーン楽友協会との姉妹提携事業 「長野フィルハーモニー管弦楽団との演奏会」、「県内の学校での演奏、子どもたちとの交流」 (R5.9)

実績 (R5)



鑑賞者: 850人 (R5.9.18)



義務教育学校 根羽学園 (根羽村)	浦里小学校 (上田市)
小中学生30人	全校46人

2-③ 「アートの手法を活用した学び」の県内学校への展開

- 県内各地で「子どもの発想を生かして育てる学びづくり」**教員向けワークショップ**を開催
- 演劇やダンスといった「**身体表現**」、美術作品を見ながら自由に意見を言い合う「**対話鑑賞**」の2つのプログラムにより、子どもたちが、コミュニケーション力や他者と共感できる力などを養えるよう、授業を進めている

■ **身体表現（演劇、ダンス）を取り入れたプログラム**

(R元年度～)

実績(R5.10現在)

13校(小学校10、特別支援学校3)

ファシリテーター

- 信州アーツカウンシルや県の事業でつながりがあり、**地域で演劇やコンテンポラリーダンス**、(表現に共通の形式を持たない自由な身体表現) **等に取り組んでいる人材を登用**

今後の拡大

- 学校現場での拡大のための教員研修の充実
- ファシリテーターとなる**人材の発掘、育成**



■ **美術作品の対話鑑賞プログラム** (R5年度～)

実績(R5.10現在)

2校(中学校2)

ファシリテーター

- シンビズムに参加している**県内の美術館・博物館の学芸員**を登用し、学校現場において、児童・生徒と美術作品との間に入って、作品を解説しながらディスカッションをリード
- 学校の朝の時間を活用した**朝鑑賞**を実施



■ **県立美術館におけるスクールプログラムの充実** (R3年度～)

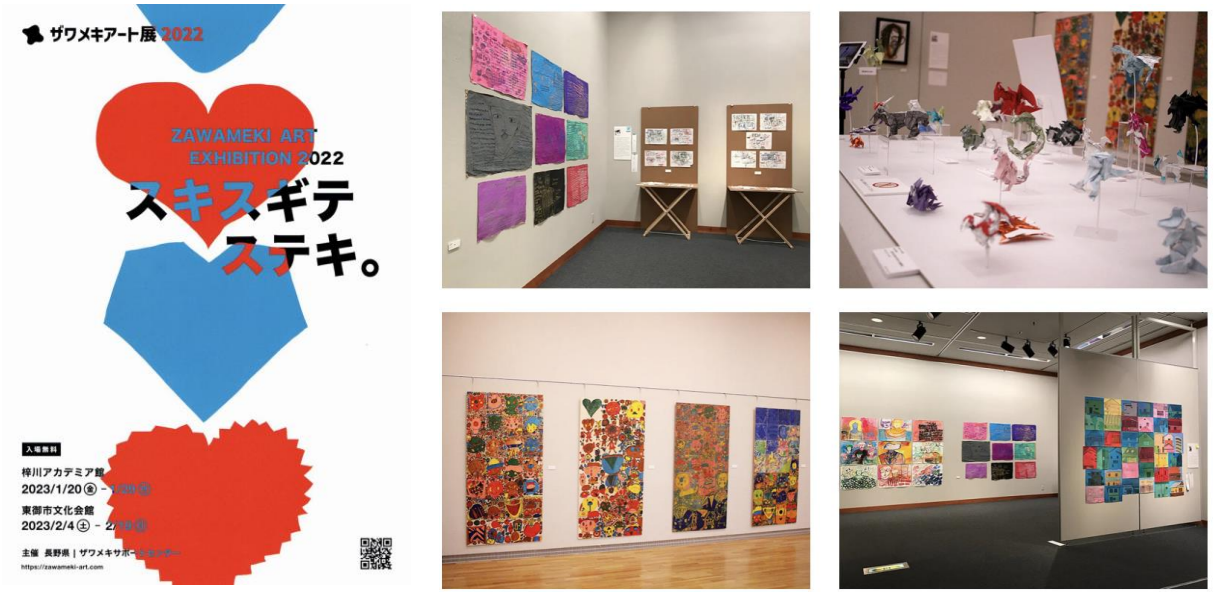
実績(R3～R4)

R3年度：7,015人、168校 / R4年度：6,077人、123校 7

2-④ 社会包摂（インクルーシブ）の取組強化

- ザワメキサポートセンター（長野県障がい者芸術文化活動支援センター）を中心に、障がいのある人の表現や創作の魅力を紹介する「ザワメキアート展」（H28～）を継続開催。障がいの有無などの垣根をなくして誰もが自由に表現しアートを楽しむ環境づくり
- 県立美術館「インクルーシブ・プロジェクト（美術館がだれでも安心してアートと出会う場所になることを目指すプロジェクト）」における「障がいのある方のための特別鑑賞日」の充実。人とアートのつなぎ役として自発的に活動するアート・コミュニケーター（56人が登録）が鑑賞をサポート

「ザワメキアート展」（H28年度～）



県立美術館インクルーシブ・プロジェクト（H3年度～）



2 - ⑤ 地域におけるアーティスト・イン・レジデンスの推進

- 「長野県と東京藝術大学との包括連携協定」に基づき、安曇野市において、東京藝大生など大学関係者が、地域の公共施設等を活用した滞在制作を行い、創作や展示に際して地域住民と交流しながら相互理解と交流人口を拡大
- 大町市で3年に1度開催される「北アルプス国際芸術祭」が定着し、国内外から多様なアーティストが滞在制作を行い、芸術祭の期間を通じて鑑賞者や地域住民と交流が拡大。交流人口の拡大による地域活性化につなげている。

「東京藝術大学との包括連携協定に基づく滞在制作」 (H31.2～)



アーティストとのワークショップ



穂高交流学習センター・みらい における
滞在制作アーティスト(鋳金)の成果報告

「北アルプス国際芸術祭」の開催 (平成29年度 (2017)、令和3年度 (2020-2021)、令和6年度 (予定))

実績(過去2回)

2017 アーティスト36組(14の国と地域)、来場者54,395人

2020-2021 アーティスト36組(11の国と地域)、来場者33,892人



2 - ⑥ 地元企業等と連携した民俗芸能の継承推進

- 長野県の**南信州地域（飯田・下伊那地域）**は**民俗芸能の宝庫**であり歌舞伎、神楽、獅子舞、風流踊など多種多様な民俗芸能が伝承されている。
- 企業・団体に支援いただく「**南信州民俗芸能パートナー企業制度**」や、関係者が協働する「**南信州民俗芸能継承推進協議会**」により、民俗芸能を未来に継承する取組を地域ぐるみで展開している。



南信州民俗芸能継承推進協議会 (H27.7~)

構成メンバー
民俗芸能団体、住民団体、行政機関(南信州広域連合)等

主な取組 「つながりの創出」

- ・南信州民俗芸能フェスティバルの開催
- ・伊那谷民俗研究集会の開催
- ・民俗芸能のカレンダー制作による情報発信 等

南信州民俗芸能パートナー企業制度 (H28.4~)

地域の企業・学校を中心に**100団体**が協力 (R5.10現在)

主な取組 「様々な支援と協働」

- ・ボランティア活動による人的支援
- ・イベント開催等の理解・交流支援
- ・協議会との協賛事業における資金支援 等

ユネスコ無形文化遺産に、長野県の3つの「**風流踊**」が登録 (R4.11)

